

じょうせいじ いしかわみんぶけせきとうぐん  
「静栖寺の石川民部家石塔群」

松伏町指定史跡

昭和50年6月1日指定

令和8年3月30日名称変更

戦国時代に松伏に土着し、近世初期に松伏領の大開墾事業を行ったとされる豪農石川民部家は、静栖寺（田中）を菩提寺とし、静栖寺の石塔群はその一族の墓所です。

巨大な宝篋印塔ほうきょういんとうと五輪塔ごりんとうが林立し、江戸時代初期の慶長14年（1609）の宝篋印塔が最古で、最も高いものは3mを超えます。また、松伏では珍しい一石五輪塔（ひとつの石から彫り上げた小型の五輪塔）も見られます。石塔群は30基以上からなり、墓石の形態の変遷をうかがうこともできます。



※個人の墓所ですので、見学の際は少人数でお越しになるなどのご配慮をお願いいたします。直接触れたり、撮影した写真を許可なく公開することもご遠慮ください。また、地震があった時は速やかに離れるようにして下さい。